

天平12、13年の瓦工房

目 次

I	はじめに—研究史略説—	107
II	恭仁宮式文字瓦の意義—瓦工名説再論—	112
	1 平瓦の規格から見た工人差	113
	2 文字記載方式から見た工人差	119
III	恭仁宮式文字瓦の構成—工房構造論—	126
	1 生瓦作工の人数	126
	2 生瓦作工の勤務状況	128
	3 工房規模の比較	131
IV	恭仁宮式文字瓦の背景—工房経営論—	132
	1 恭仁宮造當時の造瓦体制と恭仁宮式文字瓦	133
	2 官営工房の賃金支給方式と恭仁宮式文字瓦	135
V	恭仁宮式文字瓦の系譜—官窯変遷論—	138
	1 多賀城第Ⅱ期の文字瓦と隋唐洛陽城の文字瓦	138
	2 『延喜式』木工寮瓦屋	142
VI	まとめ	148
	註	149
	参考文献	153

挿 図

1	KJ06AaとKJ06Ab	120
2	多賀城第Ⅱ期の刻印瓦	139
3	恭仁宮造當時の軒瓦と多賀城第Ⅱ期併行の陸奥国府系 軒瓦	140
4	隋唐洛陽城の刻印瓦	141
5	「官」字刻印	145

表

1	恭仁宮式文字瓦一覧	108
2	東大寺法華堂の恭仁宮式文字瓦(平瓦)の規格と誤差許 容範囲	113
3	東大寺法華堂の恭仁宮式文字瓦(平瓦)の計測値の度数 分布	114
4	東大寺法華堂の恭仁宮式文字瓦(平瓦)の重量と厚さの 相関関係	116
5	刻印別の重量と厚さの相関関係	116
6	KJ08・KJ09Aの全長・広端幅・狭端幅平均値	118
7	文字記載用具・時点・主体の連鎖型	121
8	東大寺法華堂所用の「鎌倉以前」の瓦	124
9	恭仁宮式文字瓦の工房における分業体制	129
10	刻印別の上日指数	130
11	奈良時代写経所の賃金	136
12	『延喜式』造瓦規定	143